

**エレミヤ書において啓示されている、神と一になることの原則**

聖書：創 2:8-9, 16-17.

エレミヤ 2:13, 15:16, 19, 23:5-6, 31:31-34, 40:5-6, 13-14

- I. 神が人と一になり、人が神と一になるという神の願いは、神と人がかたちと姿において似ていることに見ることができます：
- A. 神の創造において、神によって創造された「人類」というのはありませんでした。むしろ、神が創造したものは、ご自身の種類、すなわち、神の種類にしたがっていました。神は命の息を人に与えて、霊を創造しました。それは、人が神と接触し、神を受け入れるためです——創 1:24-26, 2:7。
  - B. 三人の人が、創世記第 18 章 2 節から 13 節において、アブラハムに現れました。この三人のうちの一は、キリスト、すなわちエホバであり、その他の二人は御使いでした(創 19:1)。この事が意味するのは、神が肉体と成ることの二千年前に、ご自身の友アブラハムに訪れた時、人として現れたということです——歴代下 20:7, イザヤ 41:8, ヤコブ 2:23。
  - C. 神の御使い(神、エホバ、神の人——キリスト)は、キリストが肉体と成ることの前に、マノアとマノアの妻に現れました——士 13:3-6, 22-23。
  - D. ダニエルは、キリストが肉体と成ることの前に、人の子としてのキリストのビジョンを見ました。ダニエル書第 7 章 13 節から 14 節によると、ダニエルは、天の雲に乗って来た人の子を見ました。さらに、人の子は日の老いた方(永遠の神)のもとに来て、彼の御前に導かれました。この方に主権、栄光、王国が与えられたので、諸民、諸国、諸言語の者たちはすべてこの方に仕えるべきです。この方の主権は永遠の主権であって過ぎ去ることがなく、彼の王国は滅びることがありません。
  - E. アダムは、キリストの予告、型でした——ローマ 5:14。
  - F. キリストは、見えない神のかたちです——コロサイ 1:15。
  - G. 言(神)は、肉体と成り(ヨハネ 1:14)、罪の肉の様で来ましたが(ローマ 8:3)、肉の罪を持っていませんでした(II コリント 5:21, ヘブル 4:15)。
  - H. 神の形の中に存在しているキリストは、肉体と成ることにおいて、奴隷の形を取り、人の姿になられて、人としての有り様で見いだされました——ピリピ 2:6-8。
  - I. ステパノは、天が開けて、人の子(キリスト)が神の右にいるのを見ました(使徒 7:56)。この事は、キリストが昇天した後、なおも人の子であることを示しています(参照、詩歌 115 番)。
  - J. 主イエスは、マタイ第 26 章 64 節においてこう言いました、「あなたがたは、

エレミヤ書と哀歌  
メッセージ 6 (続き)

- 人の子があの方[神]の右に座し、天の雲に乗って来るのを見る」。この事は、主イエスが再来する時、なおも人の子であることを示しています。
- K. パウロが、ローマ第8章29節においてわたしたちに告げているのは、神があらかじめ知っておられた者たち(わたしたち信者)を、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定めたということです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。わたしたちは、御子が復活してわたしたちをご自身の多くの兄弟たちとすることによって、新しい種類、「神・人の種類」となりました。
- L. IIコリント第3章18節はこう言います、「わたしたちはみな、主の栄光をおおいの顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです」。ローマ第12章2節前半は、わたしたちが、思いが新しくされることによって造り変えられつつあることを語っています。
- M. ペリピ第2章15節は、わたしたちが曲がったよこしまな世代のただ中で、責められるところのない、たくらみのない、すなわち傷のない神の子供たちとなり、彼らの間で世にあって発光体のように輝くことについて語っています。
- N. 主イエス・キリストは、万物を彼ご自身に服従させることができる彼の活動によって、わたしたちの卑しい体をも<sup>へんぼう</sup>変貌させ、それを彼の栄光の体に同形化します——ペリピ3:21。
- O. キリストが現れる時、わたしたちは全く、完全に、絶対的に彼ようになります。なぜなら、わたしたちは、彼がそうであるように、彼を見るからです——Iヨハネ3:2後半。
- P. この事はすべて、新エルサレムにおいて究極的に完成します。啓示録第4章3節はこう言います、「座している方[神]は、<sup>へきぎく</sup>碧玉……のようであり」。御座に座している方である神の外観は、碧玉のようです。
- Q. 新エルサレムの光は、啓示録第21章によれば、最も尊い宝石のようであり、碧玉のようです(11節後半)。城壁は碧玉で築かれており、城壁の第一の土台も碧玉です(18節前半, 19節)：
1. 最終的に、神と人、人と神はすべて、碧玉の外観を持つようになります。こういうわけで、聖書の結論と究極的な完成は、新エルサレム、すなわち、神性と人性とのミングリングです。神性は人性の住まいとなり、人性は神性のホームとなります。
  2. この都において、神の栄光は人の中で、輝かしく、また光り輝いて現さ

れます。わたしたちは今、神化<sup>かみか</sup>されて、新エルサレムとなり、神と同じ外観(碧玉)を帯びつつある過程にあります——啓 21:11, 23。

3. わたしたちはこの時代の終わりに、神が人と成ったのは、神格においてではなく、命と性質において人を神とし、神であるのと同じにするためであるという真理を教え、宣べ伝えています。この真理を聞くことは大きな祝福です。
4. 最終的に、神・人たちは勝利を得る者、勝利者、エルサレムの内側のシオンとなります。わたしたちの日常生活のすべての詳細において神・人の生活をするには、歴史上決して見られたことのない、新しい復興をもたらします。この事は、この時代を終結させます——詩 48:2 とフットノート 1 を読んでください。

## II. エレミヤ書は、神と一になることの原則をわたしたちに示しています：

A. 神と一になることの原則は、命の木の原則であって、善悪知識の木の原則と相対しており、この事は、神の民の二つの基本的な罪を啓示している、エレミヤ書第 2 章 13 節で見られます：

1. 第一の罪は、生ける水の源泉、源としてのエホバを捨てたことであり、第二の罪は、自分たちのために、水をためることができない壊れた水ためを掘ったことでした。
2. 聖書の原則とは、神の選ばれた民が神ご自身以外の何かを彼らの源とすることを、神が願っていないというものです。神は、命としての神を表徴する命の木の前に人を置くことによって、人が他の何ものでもなく、命の木にあずかることを、ご自身が願っていたことを示していました。命の木にあずかることは、神をわたしたちの唯一の源、またわたしたちのあらゆるものの源とすることです——創 2:8-9。
3. 第二の罪は、神の民が神に信頼するのではなく、自分自身に信頼して、自分自身で、自分自身の享受のために、できることは何であれ行ない、何かを成し遂げるという事柄でした。罪とは、神を捨てて、自分自身で、自分自身のために何かを行なうことです。
4. これら二つの基本的な罪は、神を表徴する命の木とサタンを表徴する善悪知識の木をわたしたちに示しています(創 2:8-9, 16-17)。イスラエルは、命の木から知識の木へと、生ける水の源泉から水ため(偶像)へとそらされていました。

B. 神は人を命の木の前に置きました。この事が示しているのは、神が人と一になるという願い、すなわち、神が人の命、命の供給、すべてとなるとい

う願いです——創 2:8-9 :

1. 命の木が表徴しているのは、十字架につけられた(木片としての木において暗示される——I ペテロ 2:24)、また復活させられた(神の命において暗示される——ヨハネ 11:25)キリストが、神のすべての豊富の具体化であって、わたしたちの食物のためであるということです。
  2. 命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活における主要な事柄であるべきです。キリストを食べることによってキリストを受け入れることは、有機的に、また新陳代謝的に、キリストをわたしたちの存在の中へと吸収することであり、ご自身とわたしたちとをミングリングすることです——啓 2:7. ヨハネ 6:57, 63 :
    - a. 主が語る言葉は霊であり、命です。この事は、主の語った言葉が命の霊の具体化であることを示しています——ヨハネ 6:63 :
      - (1) 彼は今、復活における命を与える霊であり(I コリント 15:45 後半)、その霊は彼の言葉の中に具体化されています。
      - (2) わたしたちは霊を活用することによって、すべての祈りと願い求めによって彼の言葉を受け取るとき(エペソ 6:17-18)、命である霊を得ます。
    - b. キリストを食べることは、わたしたちの霊を活用することによって、命の霊の具体化である、彼の言葉を食べることであり、彼の言葉を受け取ることです——エレミヤ 15:16. エペソ 6:17-18. I ペテロ 2:2. ヘブル 5:13-14. エゼキエル 3:1-4.
- III. わたしたちは神の言葉を取り入れ、受け取り、守るために、絶対的に彼と一にならなければなりません :
- A. ゲダリヤの事例は、神と一にならなかった人の事例です。ゲダリヤは忠信に神の預言者エレミヤを顧みましたが、主の言葉を尋ね求めませんでした。なぜなら、この事は、彼の習慣ではなかったからです——エレミヤ 40:5-6, 13-14 :
    1. ゲダリヤは、神を自分の源として取り入れて神と一になることをせず、神から出てくるすべてのものを受け取りませんでした。もしゲダリヤが神と一になる人であったなら、彼が行なった第一の事は、神の言葉を受け取ることであってでしょう。
    2. 神の言葉は、神の思想、神のみこころ、神の心の願い、神の大いなる喜びの表現です。わたしたちは神の言葉を取り入れ、受け取り、守るため

に、絶対的に神と一になり、彼に信頼し、彼に依り頼み、自己から出てくる何の意見も持たないようにしなければなりません——参照、Ⅱコリント 1:8-9, 12 節とフットノート 2。

3. 聖書(特に新約)の原則は、神がご自身をわたしたちに開かれるということです。それは、わたしたちが彼の中へと入り、彼を受け取り、彼と一になるためです。その時、神はわたしたちの中におられ、わたしたちは彼の中におり、彼をすべてとして取り入れます——ヨハネ 15:4-5, Iヨハネ 2:28, 3:24。
  4. わたしたちが取り入れる第一のものは、神の思想、神のみこころ、神の心の願い、神の大いなる喜びを表現する神の言葉です。わたしたちは自分の意見や好みを顧慮しません。このようにして、わたしたちは神の代弁者となって、神を人に語り出し、彼らを生かします——エレミヤ 1:6-9。
- B. 主はエレミヤにこう告げました、「もし、あなたが価値のないことを言わず、尊いことを言い出すなら、あなたはわたしの口のようにになる」——エレミヤ 15:19, 23:29, 参照、16 節：
1. わたしたちは心の目が照らされて、キリストの卓越性、無上の価値、超越した価値を、ご自身の信者たちにとっての尊さとして見て、キリストを獲得し、キリスト以外のすべての事を損失であると勘定する必要があります——ピリピ 3:7-8, Iペテロ 2:7, 参照、4, 6 節。
  2. わたしたちは、主の言葉をわたしたちに割り当てられた食物よりも尊んで、主の言葉の中で主を、養う乳と新鮮な蜜みつの流れる良き地の実際として味わわなければなりません。それは、わたしたちが神の民の完全な救いのために、それらを神の民に分与するためです——ヨブ 23:12, Iペテロ 2:2-5, 詩 119:103, 申 8:8, 雅 4:11 前半。
  3. わたしたちは主の言葉を地上のすべての富よりも尊ばなければなりません。それは、わたしたちが神の託宣(神聖な啓示を伝達する神の語りかけ、神の発した言葉)を語って、キリストの計り知れない豊富を神のさまざまな恵みとして、すべての聖徒たちに分与することができるためです——詩 119:72, 9-16, エペソ 3:8, Ⅱコリント 6:10, Iペテロ 4:10-11。
- IV. イスラエルの失敗と敗北のかぎは、彼らが神の臨在を失っていて、もはや神と一でなかったことでした(参照、ヨシュア 7:3-4, 9:14)。わたしたちは、わたしたちの神と常に一になるべきです。神はわたしたちの間にいるだけでなく、わたしたちの中にもいて、わたしたちを、神を持つ人、すな



わち、神・人とします：

- A. わたしたちは神・人として、主と一になり、彼と共に歩き、彼と共に生き、完全に彼と共に存在することを実行すべきです(ローマ 8:4、Ⅱコリント 2:10、ガラテヤ 5:16、25)。これが、クリスチャンとして歩き、神の子供として戦い、キリストのからだを建造する道です。もしわたしたちが主の臨在を持ち、主と一になるなら、知恵、洞察力、先見性、事物に関する内なる認識を持つようになります。主の臨在は、わたしたちにとってすべてです。
- B. 神に対して罪を犯すことでのイスラエルの子たちのかたくなさは、彼らが神と一にならなかったことによりました(エレミヤ 42:1—43:2)。もし彼らが神と一であったなら、神の言葉を受け取り、神の心、神の性質、神の思い、神の定められた御旨を認識したでしょう。さらに、彼らは自然に神を生き、神で構成されて、地上で神の証しとなったでしょう。
- C. 神と一にならない者たちは、彼のみこころと大いなる喜びを取り入れず、自分の意見を言い表し、自分の好みを追い求めます。こうすることは、生ける水の源、源泉としての神を捨てて、水をためることができない壊れた水ためを掘ることです——エレミヤ 2:13。
- V. わたしたちは神と一になるために、キリストをわたしたちの贖いまた義認となるダビデの若枝として必要とします。この事は、三一の神をわたしたちの中へともたらし、わたしたちの命、わたしたちの内なる命の法則、わたしたちの能力、わたしたちのすべてとならせて、ご自身をわたしたちの存在の中へと分与し、ご自身のエコノミーを遂行させます。これが新しい契約です(エレミヤ 31:33)。最終的に、わたしたちは神を認識し、神を生き、神格においてではなく、命と性質において神となります。それは、わたしたちが神の団体の表現となって、新エルサレムとなるためです——エレミヤ 23:5-6、31:31-34、啓 21:2。